

## 3 4 あいちトリエンナーレ開催に対する支援について

(財務省、文化庁)

### 【内容】

「あいちトリエンナーレ」は、ヨコハマトリエンナーレと並ぶ国内最大規模の総合的な国際芸術祭であり、我が国の文化芸術を牽引し、世界の文化芸術の発展に貢献することから、「中核的な国際芸術フェスティバル」に位置づけ、戦略的、継続的に支援を行うこと。

### (背景)

国は、第3次の「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(平成23年2月策定)の中で、「文化芸術立国」を実現するための重点戦略の一つとして「文化発信・国際文化交流の充実」を掲げ、重点的な施策として、「中核的国際芸術フェスティバルの国内開催への支援」などを挙げている。

更に国は、平成23年度から、我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバルに対して戦略的かつ重点的な支援を行う「国際芸術フェスティバル支援事業」を新規に措置し、ヨコハマトリエンナーレと東京国際映画祭に限定して補助を行った。

本県では、平成22年、現代美術を基軸とし、舞台芸術なども併せて展開する国内最大規模の総合的な国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」を開催し、国際展のクオリティの高さとともに、舞台芸術との複合性や、まちなかの多様な場所での展開、普及・教育事業など「愛知の独自性」が、国内はもとより、海外の著名な美術関係者などからも高く評価された。

今後も、本県では、常に新たな視点で先端的な芸術と社会や時代との関わり方などを提示する「あいちトリエンナーレ」を継続開催することにより、世界で最も権威のあるヴェネツィア・ビエンナーレのような発信力の高い国際芸術祭に発展させることを目指している。

とりわけ次回の「あいちトリエンナーレ2013」は、世界が注目する東日本大震災の被災地の状況を実地調査し、復興に向けた提言を積極的に行っている五十嵐太郎芸術監督が中心となり、震災も含め、既成の枠組みが変動する時代にあって、改めて自分たちが立っている場所(アイデンティティ)を確認し、アートにより、「希望の復活」を強いメッセージとして、全国・世界に発信していくものである。

国は、以上のように、現代美術展の質や規模、国際性、発信力の面でヨコハマトリエンナーレと並び、更に舞台芸術も併せて展開するなど総合性を有する「あいちトリエンナーレ」を戦略的、継続的に支援し、「文化芸術の世界的拠点」として育成することにより、我が国及び世界の文化芸術の水準向上を図る必要がある。

( 参 考 )

あいちトリエンナーレ 2013 概要

テ ー マ 揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活  
 会 期 平成 25 年 8 月 10 日（土）から 10 月 27 日（日）（79 日間）  
 会 場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（長者町地区、  
 納屋橋地区など）、岡崎市内のまちなか  
 主 催 あいちトリエンナーレ実行委員会  
 芸術監督 五十嵐 太郎 氏（東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））  
 （2008 年ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展日本館コミッショナー）

主な事業

【現代美術】

- ・国内外から約 75 組のアーティストが出品するスケールで先端的な動向を紹介する国際展を開催。まちなかでの展開を拡大。「建築」の視点を導入。都市空間の魅力を増すスペクタクルな展開も検討。
- ・新進作家等を対象にした企画コンペによる展示を実施。

【舞台芸術】

- ・国内外から 15～20 組が参加し、最先端のダンス、演劇、音楽を上演。ホールを中心に、美術館のギャラリーやまちなかでも展開。ダンス、演劇、造形美術、建築等のジャンル横断的な作品を重視。
- ・斬新な舞台空間の演出によるプロデュースオペラを上演。

【普及・教育】

- ・子ども対象のキッズトリエンナーレ（創作場所の提供、ワークショップ）や学校向け団体鑑賞プログラムなどとともに、作家や作品に関する一般向けの講座等を実施。

あいちトリエンナーレ 2010 開催実績

テ ー マ 都市の祝祭 Arts and Cities  
 会 期 平成 22 年 8 月 21 日（土）から 10 月 31 日（日）（72 日間）  
 会 場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場ほか  
 主 催 あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館  
 芸術監督 建畠 哲 氏（開催時：国立国際美術館館長）  
 来場者数 572,023 人

「あいちトリエンナーレ 2010」のひとこま

